

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071101) 日本語 I a Japanese I a 中級日本語 Intermediate Japanese	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 前期月3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 山下 直子	関連授業科目 日本語 I b、c		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習時間15時間)			
授業の概要 この授業は、大学で学ぶために必要な日本語の力を身につけることをめざして、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的にのばす練習を行います。特に、「聞く」と「話す」力をつけることに重点をおいて学びます。			
授業の目的 日本語コミュニケーション能力の中で、特に「聞く」と「話す」能力を身につけます。大学生生活のさまざまな場面での日本語を聞く練習、短い文章の理解や自分の国や文化などのテーマについてスピーチをすることを通して、大学で学ぶための基礎的な日本語の力を身につけることを目的とします。			
到達目標			
①日本語を「聞く」「話す」ための基礎的な能力を身につける。 ②日本語の短い文章を聞いたり読んだりして内容を理解できる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) ③自分の国や文化などについて、まとまった話ができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業での積極性 (20%)、課題 (20%)、中間試験 (20%)、期末試験 (40%) により評価を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2～4回 全体の話をつかむ 第5回 スピーチ1 観光 第6・7回 テーマとキーワードを考える 第8回 中間試験 第9回 発表準備 第10回 スピーチ2 習慣の違い 第11～12回 話の構成を考える 第13回 要約する 第14回 発表準備 第15回 スピーチ3 インタビューの報告 第16回 定期試験 ※受講者に合わせて内容は一部変更する場合があります。			
【授業および学習の方法】 大学生生活のさまざまな場面での日本語を聞く・話す練習を行います。また、自分の国や文化などのテーマについてスピーチを作り発表します。 この授業は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1～4回 授業で学んだ表現・語彙について整理する 第5回 発表したスピーチについて復習し次回のスピーチの材料を集める 第6・7回 授業で学んだ表現・語彙について整理する 第8回前半に学んだことを復習する 第9回 テーマについて検討してスピーチの準備をする 第10回 スピーチについて復習して次回のスピーチの材料を集める 第11～13回 授業で学んだ表現・語彙について整理する 第14回 これまでの課題を検討してスピーチの準備をする 第15回 全体の復習をする			
教科書・参考書等 必要に応じて資料を配布します。			
オフィスアワー 火曜日10:30から11:30 第一回目の授業時に連絡方法を説明します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講者は、日本留学試験(日本語)250点以上、日本語能力試験N1合格をめざす日本語能力が必要です。			

ナンバリングコード B2JPN-abcG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:071102) 日本語 I b Japanese I b 中級日本語 Intermediate Japanese	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 前期木2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香	関連授業科目 他の日本語科目		
	履修推奨科目 他の日本語科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(予習・復習・課題への取り組み等を含めて約30時間)			
授業の概要 日本の社会で生活し、日本の大学で学ぶために必要な日本語能力、特に「読む」力と「書く」力を養うことを目指す。 7月実施の日本語能力試験の受験予定者が多い場合は、4～6月に、受験級に応じた試験対策を行うこともある。			
授業の目的 語彙・文法・漢字などを習得し、読解力を高め、適切な表現を用いて自分の意見を表明する力を身につけ、日常生活や大学での学業において必要な情報収集や情報発信を行う。			
到達目標			
1. 中上級から上級の語彙・文法・漢字が使えるようになる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 資料や文章を見たり読んだりして、適切に情報を得ることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 自分の言葉で意見が伝えられるようになる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業態度と課題への取り組み60%、期末レポートまたは期末テスト40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
文章やデータ等を正確に理解し、それらをふまえて自分の意見がしっかり表明できるようになることを目指す。 受講者には、積極的な授業参加と自学自習が求められる。予習が必要な事項や課題提出についてはその都度指示するが、それ以外にも、各自で適宜復習したり関連事項を学習したりして学習を深めることが望ましい。 以下はあくまで予定であり、授業内容は、受講者のレベルやニーズによって変更することもある。その場合は、授業時に再度説明する。 (1) ガイダンス、自己紹介 (2) 自己分析、他者理解 (3) 〃 (4) 言葉と文化 (5) 〃 (6) 教育 (7) 〃 (8) 歴史 (9) 〃 (10) ジェンダー (11) 〃 (12) 働くということ (13) 〃 (14) 環境問題 (15) 〃			
【実施形態について】 基本的に対面で行う予定だが、状況によっては一部または全部を遠隔に変更する可能性もある。			
【自学自習に関するアドバイス】 予習用教材が配布されたら、未習語彙や文法等について調べ、読んでおく。 授業が終わったら復習をする。 宿題や課題等が提示されたら、所定の期日までに調べたり意見をまとめたりしておく。			
教科書・参考書等 購入しなくてよい。必要に応じて資料を配布する。			
オフィスアワー 木曜日14時40分から16時10分まで、研究室(幸町北キャンパス5号館5階)にて対応する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業内容は、出席する学生の状況に応じて変更する場合がある。積極的・主体的な授業参加を求める。			

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:071103) 日本語 I c Japanese I c 中級作文 Japanese I c (Writing, Intermediate Level)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 高水 徹	関連授業科目 他の日本語科目		
	履修推奨科目 他の日本語科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(復習及び課題 30時間)			
授業の概要 ※ この授業は主に中級向けです。 日本語の文章によるコミュニケーションを適切に行うための練習を行う。授業ではまず書くための知識を整理し、その後実際に書く練習を行う。書いた文章を添削して解説することも、頻繁に行う予定である。			
授業の目的 主に大学における様々な場面で書き言葉によるコミュニケーションができる。			
到達目標			
1. わかりやすく、正確な日本語で書くことができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 文章全体を読み手にとってわかりやすく構成できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業中に出す課題と最終課題で評価する(授業中の各種課題70%、最終課題30%)。ただし、クラスの状況により変更する可能性もある。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 講義形式による説明や解説の後、実際に文章を書く練習をする。 (1) 自己紹介や自己PR (2) 定義と変化 (3) 形式的注意点や文体 (4) 比較 (5) 作文コンテストについて1 (6) 作文コンテストについて2 (7) 作文コンテストについて3 (8) 課題に対する意見1 (9) 分類と説明 (10) 文章の構成 (11) 修正 (12) キーワード作文 (13) 課題に対する意見2 (14) 最終課題1 (15) 最終課題2 この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。 ※ 内容や順序は状況に応じて一部変更する場合があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1～4週 今後の基礎になる部分なので、復習を中心に。 第5～7週 授業中の指示に従い、締め切りまでに提出する。 第8週 課題文に対して、説得力のある意見を述べる。 第9～11週 これらは、常に役立つ基本的な技術なので、特に意識的に使用する。 第12週 ここまでに学習したことに基づき、キーワードから発想を広げる。 第13週 課題文に対して、説得力のある意見を述べる。 第14～15週 例年最終課題に、学習したことが活かされていない作文があるので、注意。			
教科書・参考書等 教材は必要に応じて配布する。			
オフィスアワー 火曜日15:00～16:00、北5号館5階(研究室)または南2号館1階(インターナショナルオフィス)。(ただし、変更する場合は授業時に連絡。)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 必ず出席し、課題やレポートを提出すること。また、理解できない場合には質問することが大切である。			

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071201) 日本語Ⅱa Japanese Ⅱa 中級日本語 Intermediate Japanese (Listening & Speaking)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期水2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香, 佐藤 美穂	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
日本での日常生活および学生生活に必要な日本語能力を養うことを目的としたクラスで、特に「聞く・話す」能力を伸ばすことを中心とした学習活動を行う。			
授業の目的			
身近な話題に関する情報を聞きとる能力を養い、その話題について自ら話すために必要な基礎的な文法を復習し、さらに新しい文法を学び、それらを用いて口頭で表現できる日本語の力を身につける。			
到達目標			
1. 身近な話題に関する日本語の情報を聞きとり対応できる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 身近な話題について自分の意見を日本語で口頭表現できる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業参加状況 5%、課題提出 (作文) 15%、小テスト 15%、発表 15% 定期試験 50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
さまざまなトピックについて話されている聴解教材を用いる。			
第1回	ガイダンス、「写真を見ながら友だちを紹介する1」		
第2回	「 」 2」		
第3回	「自分や友だちの性格について話す1」		
第4回	「 」 2」		
第5回	「自分の国 (町) について紹介する1」		
第6回	「 」 2」		
第7回	「あなたの国 (町) を旅行する日本人の友だちにアドバイスする1」		
第8回	「 」 2」		
第9回	「自分の国 (町) の位置や歴史、特色などについて紹介する1」		
第10回	「 」 2」		
第11回	発表 (パワーポイントを使って自分の国や町、または行ったことがある町の紹介をする)		
第12回	「日本に来てからの生活の変化について話す1」		
第13回	「 」 2」		
第14回	「自分の国 (町) の人々と比べながら、日本人の印象について話す1」		
第15回	「 」 2」		
第16回	定期試験		
※内容や順序は状況に応じて一部変更する場合がある。			
【授業及び学習の方法】			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
【自主学習に関するアドバイス】			
第1回、3回、5回、7回、9回、12回、14回 配布されたトピックの本文を読み、わからない語い・漢字について調べて内容を理解する。 第2回、4回、6回、8回、10回、13回、15回にある単語クイズの準備をする。			
第2回、4回、6回、8回、13回、15回 授業で学んだ表現や文法事項を復習し、それらを使って各トピックについての文章を書く。 第3回、5回、7回、9回、12回、14回にある文法クイズの準備をする。			
第10回 授業で学んだ表現や文法事項を復習し、さらに第5～9回までの授業で学んだ表現を復習し発表の原稿を書			

き、PPT（パワーポイント）をつくる。

教科書・参考書等

テーマごとに資料を配布するので、とくに購入しなくてよい。

オフィスアワー 授業中、あるいはメールで対応する。mihosato0919@yahoo.co.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業内容等は受講学生の状況に応じて変更する場合もあるが、積極的な授業参加が評価に大きく影響する。

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071202) 日本語Ⅱb Japanese IIb 中級日本語 Intermediate Japanese (Reading & Writing)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期水3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香, 佐藤 美穂	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
日本での日常生活および学生生活に必要な日本語能力を養うことを目的としたクラスで特に「読む・書く」能力を伸ばすことを中心とした学習活動を行う。			
授業の目的			
学生が日本語でレポートや論文を書くために必要な力を養うために、レポートや論文に使われる言語表現の使い方を学び、内容を適切に理解できるようになる。また、レポートや論文に取り上げられている社会的問題について関心を持ち、自らの見解を日本語で伝えられるようになる。			
到達目標			
1. 日本語でレポートや論文を書くために必要な文法を使うことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 日本語で書かれたレポートや論文の一部を読み、自分の見解を持つことができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 日本語を使って自分の考えを文章や口頭で伝えることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業参加状況5%、課題提出30%、小テスト15%、定期試験50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回	オリエンテーション:授業の進め方、実力テスト		
第2回	書き言葉の文体と表現①		
第3回	書き言葉の文体と表現②		
第4回	複文の適切な使い方		
第5回	「こと」と「の」の使い分け		
第6回	名詞化①		
第7回	名詞化②		
第8回	レポートや論文でよく使う語彙の使い分け①		
第9回	レポートや論文でよく使う語彙の使い分け②		
第10回	文頭と文末の呼応		
第11回	他動詞・自動詞 (使役形・受身形)		
第12回	「は」と「が」を使い分ける		
第13回	「のだ文」の使い分け		
第14回	含意・解釈		
第15回	文献を引用する		
第16回	定期試験		
※内容や順序は状況に応じて一部変更する場合がある。			
【授業及び学習の方法】			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
日本語で書かれた資料の理解のため、単語リストを作ることが課題の一つです。 日本語で書かれたレポートや論文にある文法の説明と使い方の練習を中心に行います。 文章の社会的テーマについて話し合う活動をします。 授業テーマごとに実践問題を宿題として課します。 授業テーマごとに小テストをします。			
【自主学習に関するアドバイス】			
第1回～15回 準備学習は、配布されたプリントの文章を読み、わからない語いや漢字の読み方、意味を調べてリストを作る。 プリントにあるレポートや論文の文章の内容を理解すること。			

事後学習は、実践問題をすること。

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布するので、とくに購入しなくてよい。

オフィスアワー 授業中、あるいはメールで対応する。mihosato0919@yahoo.co.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業内容等は受講学生の状況に応じて変更する場合もあるが、積極的な授業参加と課題提出が評価に大きく影響する。

ナンバリングコード B2JPN-abcG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:071203) 日本語Ⅱc JapaneseⅡc 中級日本語 Intermediate Japanese	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期木2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香	関連授業科目 他の日本語科目		
	履修推奨科目 他の日本語科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(予習・復習・課題への取り組み等を含めて約30時間)			
授業の概要 日本の社会で生活し、日本の大学で学ぶために必要な日本語能力を養うことを目指す。 12月実施の日本語能力試験の受験予定者が多い場合は、授業前半(10～11月)に、受験級に応じた試験対策を行うこともある。			
授業の目的 語彙・文法などを習得し、聴解力・読解力・発話力を高めることにより、日常的なコミュニケーションや大学での学業を円滑に行うことができる。			
到達目標			
1. 中上級から上級の語彙・文法が使えるようになる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 資料や文章を見たり読んだりして、適切に情報を得ることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 自分の言葉で意見が伝えられるようになる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業態度と課題への取り組み60%、期末レポートまたは期末テスト40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
場面や状況に応じたコミュニケーション能力を高めていけるよう、適宜、視聴覚教材・新聞・雑誌・関連図書なども用いながら学習を進めていく。 受講者には、積極的な授業参加と自学自習が求められる。予習が必要な事項や課題提出についてはその都度指示するが、それ以外にも、各自で適宜復習したり関連事項を学習したりして学習を深めることが望ましい。 以下はあくまで予定であり、授業内容は、受講者のレベルやニーズによって変更することもある。その場合は、授業時に再度説明する。 (1) ガイダンス、自己紹介 (2) 説明、紹介、提案など (3) 〃 (4) 〃 (5) 連絡、伝言、確認など (6) 〃 (7) 〃 (8) 依頼、勧誘、許可、謝罪など (9) 〃 (10) 〃 (11) 相談、助言、苦情など (12) 〃 (13) 討論、発表、質疑応答など (14) 〃 (15) 〃			
【実施形態について】 基本的に対面で行う予定だが、状況によっては一部または全部を遠隔に変更する可能性もある。			
【自学自習に関するアドバイス】 予習用教材が配布されたら、未習語彙や文法等について調べ、読んでおく。 授業が終わったら復習をする。 宿題や課題等が提示されたら、所定の期日までに調べたり意見をまとめたりしておく。			
教科書・参考書等 購入しなくてよい。必要に応じて資料を配布する。			
オフィスアワー 木曜日14時40分から16時10分まで、研究室(幸町北キャンパス5号館5階)にて対応する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業内容は、出席する学生の状況に応じて変更する場合がある。積極的・主体的な授業参加を求める。			

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Ex1 授業科目名 (時間割コード: 071301) 日本語Ⅲa Japanese Ⅲa 日本語3a (Japanese 3a)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 前期月3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習	単位数 1	
担当教員名 轟木 靖子	関連授業科目	履修推奨科目	
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習(事前学習と事後学習を合計して30時間となります)			
授業の概要 この授業は原則として学部1年生が対象となる。日本語母語話者は受講できない。上級レベルの聴解練習をおこなう。主に日本の社会・文化・慣習について述べた文章の音声教材を用いる。日本語教師やアナウンサーのように、「ゆっくりはっきり話す」のではなく、一般の日本人が普段放送を通じて聞いている程度のスピードや、あらたまった文体や言葉遣いに慣れることにより、日本人学生と共に受講する授業についていける能力を育む。			
授業の目的 大学生活を送るうえで必要となる基礎的な聴解能力を身につける。これにより、日本人学生と共に受講する講義や演習の理解度を高めることができる。15回の授業をとおして受講生の日本語でのリスニング能力が向上することを目的とする。			
到達目標			
1. 日本人がゆっくり話していないものであっても、内容をつかむことができる。 2. 様々な学問分野で共通に使われる日本語の言い回しや文体に慣れ、自分で書く論文やレポートに生かすことができる。 この授業は、日本語コミュニケーション能力(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)の、とくにリスニング能力をのばすことに重点を置く。			
成績評価の方法と基準 出席状況(1/3)、中間テスト(1/3)、期末テスト(1/3)による。出席状況には、授業への参加態度や提出物を含む。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 最初は音声を聞き、文字に頼らずどのくらい理解できるかを試し、内容についての質疑応答、ワークシートを用いた語彙・文法の学習をおこなう。最後にスクリプト(文字化資料)を見ながら確認する。新型コロナウイルスの流行が懸念される間は、基本的には対面で実施するが、希望があれば遠隔と併用でおこなう。			
(1) Introduction (2) 春彼岸と秋彼岸 (1) (3) // (2) (4) 秋晴れ (1) (5) // (2) (6) 見えるぞ日本! 香川県 (7) 代筆 (1) (8) // (2) (9) 中間テスト (10) 敬語なんてこわくない (1) (11) // (2) (12) 脱・若者ことば (13) ニュースを聞く (1) (14) ニュースを聞く (2) (15) まとめ (16) 期末テスト			
【自学自習に関するアドバイス】 授業で配布したプリントをよく復習しておくこと。			
教科書・参考書等 授業中にプリントを配布する。			
オフィスアワー 月曜日 14:30~15:00 幸町北キャンパス4号館3階 研究室(遠隔でも対応します)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 聴解が中心といっても、内容は語彙、文法、表現など多岐にわたります。復習をしっかりとやりましょう。			

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071302) 日本語Ⅲb Japanese Ⅲb 中級日本語 Intermediate Japanese (Writing)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 前期木3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香, 佐藤 美穂	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
本授業では、日本語の文章表現のルールを学び、使えるようになることを目指す。特に論文やレポート、日常の文章などを自然な日本語で書けるようにする。			
授業の目的			
日本語の書き言葉のルールを身につけ、それに従って自分が書いた文章を、読む人の立場に立って推敲し、読む人にとってわかりやすい日本語の文章について理解する。			
到達目標			
1. 日本語の書き言葉のルールを習得する (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 日本語の書き言葉のルールに従って文章が書ける (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 他人の文章が校正できる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業参加状況 10%、小テスト 20% 課題発表 20%、定期試験 50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
日本語中級・上級学習者が書いた文章を読んで、正しい文に直す練習をすることによって、日本語の書き言葉のルールを学ぶ。授業中に短い文章を書き、その文章が自然な日本語になるように学生同士で検討する。			
第1回	ガイダンス、文法・文型①		
第2回	文法・文型②		
第3回	文法・文型③		
第4回	文字・表記①		
第5回	文字・表記②		
第6回	文字・表記③		
第7回	語彙・意味①		
第8回	語彙・意味②		
第9回	語彙・意味③		
第10回	文章・談話①		
第11回	文章・談話②		
第12回	文章・談話③		
第13回	実践編①		
第14回	実践編②		
第15回	実践編③		
第16回	定期試験		
※内容は状況に応じて変更する場合がある。			
【授業及び学習の方法】			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
【自主学習に関するアドバイス】			
第1～12回 準備学習は、配布されたプリントの文章を読み、語いや漢字の読み方について調べてくること。文章の間違ひについて指摘、説明できるようにすること。 事後学習は、文法事項を復習し練習問題に取り組むこと。次の授業で行われる小テストの準備をすること。			
第13～14回 準備学習は、第1～12回で学んだ文章を書くためのルールを踏まえて文章を書くこと。 事後学習は、文章の校正をすること。			
第15回 準備学習は、発表活動に備えること。			

事後学習は、第1～12回の文章を書くためのルールを復習すること。

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布するので、とくに購入しなくてよい。

購入しなくてよいが、石黒圭・筒井千絵著『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワークに取り上げられている学習項目から選択して指導する。

オフィスアワー 授業中、あるいはメールで対応する。mihosato0919@yahoo.co.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業内容は受講学生の状況に応じて変更する場合もあるが、積極的な授業参加が評価に大きく影響する。

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Ex1 授業科目名 (時間割コード: 071401) 日本語IVa Japanese IVa 日本語4a (Japanese4a)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期月3	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 日本語	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習	単位数 1	
担当教員名 轟木 靖子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習(事前学習と事後学習を合計すると30時間となります)			
授業の概要 この授業は原則として学部1年生が対象となる。日本語母語話者は受講できない。上級レベルの聴解練習をおこなう。主に現代日本の社会や文化をテーマに取り上げたテレビあるいはラジオ番組をもとにして作った教材を用いる。日本語教師やアナウンサーのように、「ゆっくりはっきり話す」のではなく、一般の日本人が普段見聞きしている映像や音声に慣れることにより、日本人の考え方について深く理解し、また日本人学生と共に受講する授業や演習へ積極的に参加する能力を育む。			
授業の目的 前期に引き続き大学生活を送るうえで必要となる基礎的な聴解能力を身につけることができる。これにより、日本人学生と共に受講する講義や演習の理解度を高めることができる。15回の授業をとおして受講生の日本語でのリスニング能力が向上することを目的とする。			
到達目標 1. 日本人がゆっくり話していないものであっても、内容をつかむことができる。 2. 日本人の考え方や生活のスタイル、日本社会の抱える問題について理解し、学生生活を充実させることができる。 この授業は、日本語コミュニケーション能力（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）の中の、とくにリスニング能力をのばすことに重点を置く。			
成績評価の方法と基準 出席状況(1/3)、中間テスト(1/3)、期末テスト(1/3)による。出席状況には、授業への参加態度や提出物を含む。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 最初は音声のみを聞き、画面や文字に頼らずどのくらい理解できるかを試し、内容についての質疑応答、ワークシートを用いた語彙・文法の学習をおこなう。最後にスクリプト（文字化資料）を見ながら確認する。新型コロナウイルスの流行が懸念される間は、基本的には対面で実施するが、希望があれば遠隔と併用でおこなう。 (1) Introduction (2) 大学生・アルバイト (1) (3) // (2) (4) 大学生・ロックバンド (1) (5) // (2) (6) // (3) (7) 新入社員 (1) (8) // (2) (9) 中間テスト (10) プログラマーの仕事 (11) 商品開発サラリーマンの仕事 (12) スーパーバイザーの仕事 (13) 定年後の生きがい (1) (14) // (2) (15) まとめ (16) 期末テスト 【自学自習に関するアドバイス】 授業で配布したプリントをよく復習しておくこと。			
教科書・参考書等 授業中にプリントを配布する。			
オフィスアワー 月曜日 14:30～15:00 幸町北キャンパス4号館3階 研究室 (遠隔でも対応可)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 聴解が中心ですが、内容は語彙、文法、表現など多岐にわたります。復習をしっかりとやりましょう。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071402) 日本語IVb Japanese IVb 上級日本語 Advanced Japanese	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期金3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香, 黒川 祐三子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 発表の聞き取りと発表・質疑応答の能力を伸ばす。			
授業の目的 発表の聞き取りや発表のスキルをあげるためのテクニックを学び、次にどのような内容が話されるか予測できるように、聞き取りや発表の能力を伸ばすことができる。			
到達目標			
①発表を聞き取り、メモがとれる。 ②苦手な聞き取りの傾向を把握し、そこから質問したり、確認したりして理解度があげられる。 ③原稿を読むのではなく、メモを見ながら発表ができる。 (以上、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業中の参加状況(20%)、発表レポート(40%)、課題発表(40%)による評価			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
テーマごとの発表を聞き取りメモの取り方を学ぶ。そしてメモをもとに発表する練習を行う。			
1週目	メモを取る練習・発表全体の構成確認		
2～3週目	発表全体の流れを知り、発表のための基本的な表現を学ぶ。(テーマ:食中毒)		
4～5週目	背景説明、問題提起、方向付けをする。分類の表現を使って発表する。(テーマ:言葉と文化)		
6～7週目	背景説明、問題提起、方向付け、全体の予告をし、本論へつなげる。背景説明の一部としてデータ		
	の提示をし、説明する。定義、割合の表現を使って説明する。(テーマ:不登校)		
8～9週目	行動提示をし、本論へ入る。データの提示をし、データの説明、解釈を示す。変化・経緯の表		
10～11週目	現を使って、データを説明する。(テーマ:高校生とバイク)		
12～13週目	比較表現を使って発表する。複数のデータを比較し、意見を述べる(テーマ:食料自給率)		
14～15週目	結論の提示をし、全体のまとめと今後の課題を話す。因果関係・補足説明をする表現を使って、発表する。発表が終了したことを述べ、聞き手に質問を促す。(テーマ:子どもの生活習慣病)		
	課題(資料をもとに適切な構成を作成する。発表に必要な資料を作成し、発表する。(テーマ:よく飲まれる飲料について)		
	*内容や順序は状況に応じて一部変更する場合がある。		
この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。			
【自学自習のためのアドバイス】 各テーマの自作発表文を声に出して読み、録音した後、それを聞き直し、学習したことが発表に活かされているかチェックする。			
教科書・参考書等 必要に応じて資料を配布するので、とくに購入しなくてよい。 参考書:『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』犬飼康弘著 スリーエーネットワーク ¥2,625			
オフィスアワー 質問がある場合はメール、または直接、授業中・授業後に質問すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとる。			
教員の実務経験との関連 長年の留学生に対する日本語教育の実務経験をもとに留学生の「読む・書く・聞く・話す」の4技能向上を図る講義やグループ活動などを行っていく。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071501) 日本語 Va Japanese Va 上級日本語 Advanced Japanese(Listening & Speaking)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 前期金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香, 黒川 祐三子	関連授業科目 履修推奨科目 日本事情 Ia		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 日本や日本企業に就職をする場合、就職活動から入社当初にわたり必要となるビジネス日本語を養う。また、日本語の表現の運用練習にとどまらず、日本企業で働く際に必要とされる習慣やマナーなどの理解と適切なふるまいについても考える。『日本事情 Ia』の授業でも日本の就職活動や日本人の働き方など異文化を理解する内容なので、より深く理解するためにこの授業と合わせて受講することを推奨する。			
授業の目的 日本国内または海外の日本企業への就職活動のシステムや方法を学び、自身の就職活動を円滑にすすめられるようになる。就職活動や入社後に必要なビジネス日本語表現の口頭練習やロールプレイによって運用力を高める。また、その際必要な習慣やビジネスマナーを理解し、状況や目的、理由、方法などを誤解や失礼のないよう、相手と「気持ちの共有、共感」ができるような会話力を向上させることができる。			
到達目標			
①日本企業への就職活動の内容を理解し、必要な日本語表現を使って、就職活動ができる。 ②入社後必要となるビジネス日本語表現を使って電話応対やビジネスメールのやりとりができる。 ③日本企業で働く際の習慣やビジネスマナーを理解し、適切に運用できる。 (以上、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業中の参加状況 (20%)、授業中のロールプレイや提出課題 (40%)、プレゼンテーション (40%) による評価			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業及び学習の方法】 授業は各回のテーマごとの講義と運用練習で進める。口頭練習やロールプレイなどペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション発表を行うことにより運用力を高める。			
【授業計画】 1週目 オリエンテーション・目標設定と自己紹介のしかた 2週目 ビジネス場面の挨拶と自己分析 3週目 業界について①・自己PR 4週目 業界について② 5週目 面接の受け方① 6週目 面接の受け方② 7週目 電話を受ける 8週目 電話をかける 9週目 電話でアポイントをとる 10週目 ビジネスメール① 11週目 ビジネスメール② 12週目 プレゼンテーションについて① 13週目 プレゼンテーションについて② 14週目 プレゼンテーションについて③ 15週目 プレゼンテーションについて④ (フィードバック) とまとめ *内容や順序は状況に応じて一部変更する場合がある。			
この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。			
【自学自習のためのアドバイス】 予習用教材が配布されたら、未習語彙や文法などについて調べ、読んでおくこと。 宿題や課題が提示されたら、積極的に取り組み、期日を守ること。			
教科書・参考書等 必要に応じて資料を配布するので、とくに購入しなくてよい。 参考書: 『伸ばす!就活能力・ビジネス日本語力 日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』国書刊行会 『人を動かす!実践ビジネス日本語会話』スリーエーネットワーク			
オフィスアワー 質問がある場合はメール、または直接、授業中・授業後に質問すること。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとる。

教員の実務経験との関連

留学生への就職活動支援や外国人ビジネスマンの日本語教育という実務経験をもとに留学生が日本での就職活動や就職後の問題解決に役立てることができるよう講義やグループ活動などを行っていく。

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071502) 日本語Vb Japanese Vb 上級日本語 Advanced Japanese (Speaking & Writing)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 前期木2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香, 佐藤 美穂	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(事後学習30時間)			
授業の概要			
本授業では、大学で学ぶために必要な日本語の表現能力を向上させることを目指す。自己紹介やアンケートのとり方など様々な項目を扱う。			
授業の目的			
大学生活に必要な日本語を効果的に表現する方法を知る。トレーニングシートを完成させる作業を通して、日本語の表現能力を身につけることができる。			
到達目標			
1. 大学生活の様々な場面において効果的な日本語表現が選択できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 効果的な日本語を使用して自分の考えを表現したり、物事を描写できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業参加状況 10%、課題提出40%、定期試験50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業はトレーニングシートを中心に進められる。学生の答えを聞きながら、双方向的に授業を進める。必要に応じてグループ活動を行う。			
第1回	自己紹介		
第2回	ノートのとり方		
第3回	敬語の基礎		
第4回	確実な連絡メモ		
第5回	メールの書き方		
第6回	手紙の書き方		
第7回	説明のコツ		
第8回	アンケートのとり方		
第9回	資料の読み取り		
第10回	効果的なプレゼンテーション①		
第11回	効果的なプレゼンテーション②		
第12回	確実なレポートの書き方①		
第13回	確実なレポートの書き方②		
第14回	自己アピール文の書き方①		
第15回	自己アピール文の書き方②		
第16回	定期試験		
※内容や順序は状況に応じて一部変更する場合がある。			
【授業及び学習の方法】			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
【自主学習に関するアドバイス】			
授業内容のポイントを整理すること。テーマごとに課題(トレーニングシート)を完成させて提出すること。			
<トレーニングシート>			
第1回	効果的な自己紹介を書くためのポイントを意識して自己紹介を書く。		
第2回	学習に有効なノートの取り方のポイント整理する。		
第3回	日本語の敬語の使い方を整理する。		
第4回	確実な連絡をするために必要な要素を整理してメモを書く。		
第5回	目上の人へ依頼メールを書くために必要な要素や順序や礼儀を整理して依頼メールを書く。		
第6回	手紙を書くためのルールを整理して手紙を書く。		
第7回	情報をわかりやすく正確に相手に伝えるための日本語の表現のポイントを整理する。		
第8回	アンケートの設定の注意を整理し、アンケートをつくる。		

第9回 資料の読み取りのポイントを整理する。
第10～11回 効果的なプレゼンテーションをするための方法を整理する。
第12～13回 レポートの書き方のポイントを整理する。
第14～15回 日本の会社に就職することを想定し、自己アピール文を書く。

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布するので、とくに購入しなくてよい。
購入しなくてよいが、橋本 修・安部朋世・福嶋健伸 編著『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』三省堂から学習項目を選択して指導する。

オフィスアワー 授業中、あるいはメールで対応する。mihosato0919@yahoo.co.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講者は、日本留学試験（日本語）250点以上、または日本語能力試験N1合格以上の日本語能力が必要です。
授業内容は受講学生の状況に応じて変更する場合もある。積極的な授業参加、課題提出が評価に大きく影響する。

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071601) 日本語VIa Japanese VIa 上級日本語 Advanced Japanese	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香, 黒川 祐三子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
講義とはどのようなものかを理解し、講義を聞く練習、ノートを取るタスクを通して、大学で行われる講義を聞いて理解する力を養成する。また講義を聞いたあとで内容を確認したり、わからないところを質問したり、要約して説明したり、話す力も向上させる。テーマは日本語学、文学、日本語教育、思想史、異文化理解、歴史、物理学、生物学など文系・理系の多岐にわたる。			
授業の目的			
講義を聞く際に必要な能力として、「聞く力」のみならず、配布資料を「読む力」、メモをとったり、ノートにまとめる「書く力」、講義後に分らないところを質問したり、内容について話し合ったりする「話す力」が求められる。この授業では様々なタスクをとおして、これらの能力を伸ばすことができる。			
到達目標			
①講義を聞きながら配布資料、投影資料のスライドなどを読むことができる。 ②講義をする各講師の特徴ある自然な話し方に慣れ、個人の癖が加わった日本語を聞きながらメモやノートがとれる。 ③分らない言葉があっても聞き飛ばしたり、それが重要な言葉であるかどうか判断できる。 ④メモをもとに整理された講義ノートを作ることができる。 ⑤講義を聞いて分かったことや分らなかったことをクラスメイトに話したり、聞いたりすることができる。 ⑥講義の内容について、自分の意見を述べたり、クラスメイトと議論することができる。 (以上、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業中の参加状況(20%)、講義ノートの提出(40%)、発展学習の課題提出(40%)による評価			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業及び学習の方法】			
①講義の紹介・講義する先生の紹介 その講義がどのような分野の内容かを紹介する			
②講義動画を視聴する 資料を見たり、メモやノートを取ったりしながら、講義を聞く(20分程度)			
③内容確認問題 内容が理解できているか確認する			
④発展学習 テーマについて、更に考えたり、調べたりする。			
⑤宿題として講義メモをもとに整理された講義ノートを作成し、提出する。			
【授業計画・講義テーマ】			
1週目 講義の聞き方、メモの取り方、ノートのまとめ方 枕草子①			
2週目 枕草子②			
3週目 「思う」という言葉ー「～と思う」と「～思っている」ー			
4週目 「子どもを産まない」という行動がなぜ進化したか?ーハチの社会性の進化ー①			
5週目 「子どもを産まない」という行動がなぜ進化したか?ーハチの社会性の進化ー②			
6週目 外国人児童生徒と日本語教育①			
7週目 外国人児童生徒と日本語教育②			
8週目 日本は「国土が狭くて人口が多い」という神話①			
9週目 日本は「国土が狭くて人口が多い」という神話②			
10週目 文化を読み解くーホフステードの研究から「不確実性の回避」ー①			
11週目 文化を読み解くーホフステードの研究から「不確実性の回避」ー②			
12週目 食料自給率から見た日本の食生活の変化①			
13週目 食料自給率から見た日本の食生活の変化②			
14週目 「文化権」ー人権のシンデレラー①			
15週目 「文化権」ー人権のシンデレラー②			
※授業内容や順序は受講生の状況に応じて変更することもある。			

この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。

【自学自習のためのアドバイス】

予習用教材が配布されたら、未習語彙や文法などについて調べ、読んでおくこと。
宿題（メモを見て講義ノート作成など）や発展学習の課題が提示されたら、積極的に取り組み、期日を守ること。

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布するので、とくに購入しなくてよい。

参考書：『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義』東京外国語大学留学生日本語教育センター 編著，2019，スリーエーネットワーク，¥2,000

オフィスアワー 質問がある場合はメール、または直接、授業中・授業後に質問すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとる。

教員の実務経験との関連

長年の留学生に対する日本語教育の実務経験をもとに留学生の「読む・書く・聞く・話す」の4技能向上を図る講義やグループ活動を行っていく。

ナンバリングコード B2JPN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:071602) 日本語VIb Japanese VIb 上級日本語 Advanced Japanese (writing)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期木2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 山下 直子	関連授業科目 日本語VIb、IVa、IVb		
	履修推奨科目 日本語VIa		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 この授業は、日本語上級レベルの四技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的に養成し、大学で学ぶために必要な日本語の運用能力をつけることをめざします。特に、レポートや論文を書くための準備を行います。			
授業の目的 日本語コミュニケーション能力の中で、特に書く能力を身につけます。上級レベルの日本語の四技能のうち「書く」に関して、書き言葉と話し言葉の違いを知り、レポートや論文を書くときに使われる表現や文章の構成について理解し、大学で学ぶために必要な日本語の運用能力をつけることを目的とします。			
到達目標			
①書き言葉と話し言葉を区別できる。 ②レポートや論文でよく使われる表現を使って文章を書くことができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) ③文章の構成を考えてレポートや論文を書くことができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業での積極性(15%)、作文課題(25%)、中間試験(20%)、期末試験(40%)により評価を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1・2回 レポートや論文の表現 第3回 論文構成 第4回 序章の表現1 論点提示 第5回 序章の表現2 研究目的 第6回 本論の表現1 研究方法 第7回 本論の表現2 結果 第8回 中間試験 第9回 本論の表現3 引用 第10回 本論の表現4 考察 第11回 本論の表現5 帰結 第12回 結論の表現 第13回・第14回 構成を考え文章を書く:テーマと構成を考える 第15回 構成を考え文章を書く:新聞へ投稿する 第16回 定期試験			
【授業および学習の方法】 レポートや論文に必要な表現や文章の構成(展開のパターン)を序論・本論・結論という一般的な構成に即して学び、書く練習をします。 この授業は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1～2回 文体や原稿用紙の書き方について復習する。 第3～5回 論文構成や序論の表現について整理する。 第6回 本論で使われる表現について整理する。 第7～8回 前半に学んだことを復習する。 第9～11回 本論の表現について整理する。 第12回 結論で使われる表現について整理する。 第13～15回 テーマを決め資料を収集し投稿の準備を行う。			
教科書・参考書等 必要に応じて資料を配布します。			
オフィスアワー 火曜日10:30から11:30 第一回目の授業時に連絡方法を説明します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講者は、日本留学試験(日本語)250点以上、または日本語能力試験N1合格以上の日本語能力が必要です。			

<p>ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:072101) 日本事情 I a Japanese Affairs I a 日本事情 Japanese Affairs I a</p>	<p>科目区分 外国語科目 水準 学士:基礎科目 分野 日本語 授業形態 講義 グループワーク</p>	<p>時間割 2022年度 前期金3 提供部局: 大教センター DPコード: axx 単位数 2</p>	<p>対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 塩井 実香, 黒川 祐三子</p>	<p>関連授業科目 履修推奨科目 『日本語 Va』</p>		
<p>学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要 この授業では、日本の就職活動という視点から日本人の働き方や考え方など異文化理解を深め、留学生の自国の文化との違いや共通点を考えることによって、将来新しいものや自分と違うものと接したときの姿勢を養う。 『日本語 Va』の授業では日本の就職活動や入社後に必要なビジネス日本語の運用練習を中心に行っており、関連している。授業の理解と定着を高められるため、合わせて科目履修することを推奨する。</p>			
<p>授業の目的 日本の就職活動や企業が求める人材、日本人の働き方について理解し、就職活動に必要な準備や対策を行うことによって自分や自分の文化も理解し、自分の就職活動に役立てることができる。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>①自分とは異なる多様な文化や考え方の存在や言語と文化がつながっていることに気づき、視野を広げることができる。 ②自分や自分の文化を振り返ることができる。 ③将来新しいものや自分と違うものに接したときの姿勢を養うことができる。(特に日本企業が重視するチームワーク力や異文化の壁を乗り越える適応力と問題解決能力) ④日本企業への就職活動が円滑にできる。 (以上、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業中の積極性(20%)、提出課題(40%)、プレゼンテーション(40%)による評価</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業及び学習の方法】 授業は各回のテーマごとに講義を中心に進めるが、受講生の理解を助け、運用力を高めるために適宜、ペアワーク、グループワークなどを取り入れる。</p> <p>【授業計画・テーマ】 1週目 日本で就職するとは① 2週目 日本で就職するとは② 3週目 業界を知る① 4週目 業界を知る② 5週目 企業と出会う 6週目 企業を知る・選ぶ① 7週目 企業を知る・選ぶ② 8週目 チームビルディングを体験する 9週目 社会文化能力を養う(異文化理解) 10週目 社会人基礎力を養う 11週目 キャリア・自分について考える 12週目 履歴書とエントリーシート対策① 13週目 履歴書とエントリーシート対策② 14週目 筆記試験対策 15週目 内定・入社後と日本のビジネス慣習について・まとめ *内容や順序は状況に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】 予習用教材が配布されたら、未習語彙や文法などについて調べ、読んでおくこと。 宿題や課題が提示されたら、積極的に取り組み、期日を守ること。</p>			
<p>教科書・参考書等 必要に応じて資料を配布するので、とくに購入しなくてよい。 参考書: 『留学生のための就職内定ワークブック』日本能率協会マネジメントセンター 『外国人留学生のための就活ガイド2023』</p>			

オフィスアワー 質問がある場合はメール、または直接、授業中・授業後に質問すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとる。

教員の実務経験との関連

留学生への就職活動支援や外国人ビジネスマンの日本語教育という実務経験をもとに、留学生が日本での就職活動や就職後の問題解決に役立てることができるよう講義やグループ活動などを行っていく。

ナンバリングコード B2JPN-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:072102) 日本事情 I b Japanese Affairs I b 日本事情 I b (Japanese affairs Ib)	科目区分 外国語科目 水準 学士:基礎科目 分野 日本語 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:acb 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 塩井 実香, 黒川 祐三子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習45時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 現代日本の社会・文化について基本的な知識を身につけ、他者と協働して学びながら自分の考えや主張を日本語で表現する能力を養う。			
授業の目的 現代日本について理解するために必要な基本的知識と語彙力を身につける。他者と協働して学ぶ学習スキルと表現力を養う。			
到達目標			
1. 現代日本の文化・社会を構成する多様な分野の知識を得る。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 授業で扱ったテーマについて、多角的にとらえ自国や他国と比較する思考力を深め、自分の言葉で説明することができる。 3. 他者と協働して学び、自分の考えを他者への配慮をもちつつ発信することができる。 (2,3は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。)			
成績評価の方法と基準 授業中の参加状況(20%)、タスク課題(40%) プレゼンテーション課題(40%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 『クローズアップ日本事情15ー日本語で学ぶ社会と文化』の章立てに従って進める。 第1週 インTRODダクション, 日本ってどんな国? 第2週 都市の暮らし・地方の暮らし 第3週 日本の旅を楽しもう 第4週 いただきます! 第5週 年中行事 第6週 日本の歴史 第7週 伝統文化体験 第8週 現代文化とポップカルチャー 第9週 科学技術 第10週 地球のためにできること 第11週 教育と子供たち 第12週 産業構造と経済 第13週 政治と憲法 第14週 多文化共生社会を目指して 第15週 プレゼンについて ※進捗状況の関係で進捗が変更になる可能性がある。			
【授業および学習の方法】 毎週、次週の授業のための準備として課題が提出される。課題を踏まえて、授業では様々なタスク(自分で何かを調べる、その内容をペアやグループで比べたり話し合ったりする、クラスで発表する)を行う。			
【自学自習のためのアドバイス】 毎回必ず課題を提出して授業に臨むこと。教科書の文章を読み、分からない語句は調べておくこと。 ※この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全て、または一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。			
教科書・参考書等 教科書:『クローズアップ日本事情15ー日本語で学ぶ社会と文化』(The Japan Times) 2500円(税別) 注)必ず教科書を購入して、第1回目の授業に参加すること。			
オフィスアワー 質問がある場合はメール、または直接、授業中・授業後に質問すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回、出席をとります。自ら考えるためのタネとして受講して、日本に対する理解を深めてください。			

ナンバリングコード B2JPN-aebG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 072201) 日本事情Ⅱa Japanese Affairs Ⅱa 日本事情Ⅱa Japanese Affairs Ⅱa	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期木3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード: aeb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 ロン リム	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
本授業は二部構成で行われます。授業の前半、香川の事情を理解するため、受講生は、既存の資料・記事を活用して読力や理解力を磨きます。授業の後半、学年や国籍別等で、チームを結成し、グループワークをします。各チームは授業中で学んだテーマに基づいて、プレゼンテーションの準備をします。順番に授業中、プレゼンテーションをします。期末、プレゼンテーションの内容をレポート形式にして提出します。			
授業の目的			
この授業は、日本語コミュニケーション能力の中で特にスピーキング能力や表現能力を養うことに重点を置きます。15回の授業を通して受講生の日本語でのスピーキング・表現能力を向上させることを目的とします。			
到達目標			
受講生は日本語でプレゼンテーションに挑戦することによって、香川の事情を一層把握することができます。自分の意見や意思を第三者に発信(コミュニケーション)する能力を向上することができます。((共通教育スタンダードの「地域理解/地域に関する関心と理解力」、「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」、「言語運用能力/課題解決のための汎用的スキル」に対応。))			
成績評価の方法と基準			
以下の部分から総合的に評価をします。 (1) 予習の有無を含んで勉学の姿勢や授業参加 50% (2) プレゼンテーション 50% 無断欠席した場合、一回につき、5点減点となります。 期末試験は実施しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業の進め方は、以降の通りであります。今回使用する資料は「瀬戸内海の環境の保全に関する香川県計画」となります。前の週、教材を配布します。受講生は予習をして来ます。授業中、記事を輪読しながら、ディスカッションをします。後半の進み方は、取り上げられたテーマに基づいて、チームメンバーは話し合います。与えられた担当の部分と、各自で資料などを調べて、プレゼンテーションの準備をします。プレゼンテーションはパワーポイントを使用します。授業の最後に、プレゼンテーションした内容をレポート形式で提出します。(※各授業のテーマは変更の可能性あります。)			
1 ガイダンス、他己紹介シート記入 2 里海づくりの推進 3 美しい海—水質の保全及び管理 4 美しい海—自然景観及び文化的景観の保全 5 美しい海—廃棄物の処理施設の整備及び処分地の確保 6 美しい海—健全な水環境・物質循環機能の維持・回復 7 生物が多様な海—沿岸域の環境の保全、再生及び創出 8 生物が多様な海—水産資源の持続的な利用の確保、島しょ部の環境の保全 9 交流と賑わいのある海—自然景観及び文化的景観の保全 10 基盤的な施策—水質等の監視測定 11 基盤的な施策—情報提供、広報の充実 12 基盤的な施策—環境教育・環境学習の推進 13 グループプレゼンテーション 14 グループプレゼンテーション 15 グループプレゼンテーション			
教科書・参考書等			
教材は授業中配布されます。			
オフィスアワー 水曜日、13時～14時 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
予習は必ずしてくる事です。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:073101) 初級日本語 I a イ Elementary Japanese I a 初級日本語 I a Elementary Japanese I a	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 1Q月2～3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香	関連授業科目 初級日本語II、初級日本事情		
	履修推奨科目 同上		
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(予習・復習・課題への取り組み等を含めて約30時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる。 2) 日本語初級の文法がわかる。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み: 60% 2) 各種小テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施時期> 前期: 4月中旬から5月末頃の8週間程度。 後期: 10月初旬から11月中旬頃の8週間程度。</p> <p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語Ia、Ib、Icは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 発音とひらがな (2) カタカナ (3) あいさつ (4) 自己紹介 (5) 物の名前、持ち主 (6) 場所、値段、買い物 (7) 時刻、曜日、日常の行動 (8) 復習 (9) 乗り物の利用 (10) 基本的な行動、勧誘 (11) 物の授受、日本語での名称 (12) 事物の描写や感想 (13) 好悪、所有、理由 (14) 場所と存在 (15) 復習</p> <p><実施形態> 基本的に対面の予定だが、状況によっては一部または全部を遠隔にする可能性もある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくる。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー オフィスアワーは木曜日の午後2時40分から4時10分まで、 研究室の場所は幸町北キャンパス(教育学部)5号館5階です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習と復習をしてください。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 073102) 初級日本語 I b イ Elementary Japanese I b Elementary Japanese Ib	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 1Q水2, 木2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 日本語	提供部局: 大教センター DPコード: axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 高水 徹	関連授業科目 他の初級日本語		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2) 日本語初級の文法がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み(含 各種小テスト): 60% 2) 期末テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語Ia、Ib、Icは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 発音とひらがな (2) カタカナ (3) あいさつ (4) 自己紹介 (5) 物の名前、持ち主 (6) 場所、値段、買い物 (7) 時刻、曜日、日常の行動 (8) 復習 (9) 乗り物の利用 (10) 基本的な行動、勧誘 (11) 物の授受、日本語での名称 (12) 事物の描写や感想 (13) 好悪、所有、理由 (14) 場所と存在 (15) 復習</p> <p>この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくること。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー 火曜日 15:00～16:00、北5号館5階(研究室)または南2号館1階(国際オフィス)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 実際に日本語を使えるようになるためには、たくさん使うことが大切です。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 073103) 初級日本語 I c イ Elementary Japanese I c 初級日本語 I c Elementary Japanese I c	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 1Q火2~3	対象年次 1~
	水準 学士: 基礎科目 分野 日本語	提供部局: 大教センター DPコード: axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香	関連授業科目 初級日本語II、初級日本事情		
	履修推奨科目 同上		
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(予習・復習・課題への取り組み等を含めて約30時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる。 2) 日本語初級の文法がわかる。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み: 60% 2) 各種小テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施時期> 前期: 4月中旬から5月末頃の8週間程度。 後期: 10月初旬から11月中旬頃の8週間程度。</p> <p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語Ia、Ib、Icは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 発音とひらがな (2) カタカナ (3) あいさつ (4) 自己紹介 (5) 物の名前、持ち主 (6) 場所、値段、買い物 (7) 時刻、曜日、日常の行動 (8) 復習 (9) 乗り物の利用 (10) 基本的な行動、勧誘 (11) 物の授受、日本語での名称 (12) 事物の描写や感想 (13) 好悪、所有、理由 (14) 場所と存在 (15) 復習</p> <p><実施形態> 基本的に対面の予定だが、状況によっては一部または全部を遠隔にする可能性もある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくる。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー オフィスアワーは木曜日の午後2時40分から4時10分まで、 研究室の場所は幸町北キャンパス(教育学部)5号館5階です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習と復習をしてください。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:073201) 初級日本語Ⅱa イ Elementary Japanese Ⅱa 初級日本語Ⅱa Elementary Japanese Ⅱa	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 2Q月2～3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香	関連授業科目 初級日本語Ⅰ、初級日本事情		
	履修推奨科目 同上		
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(予習・復習・課題への取り組み等を含めて約30時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる。 2) 日本語初級の文法がわかる。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み: 60% 2) 各種小テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施時期> 前期: 6月頃から前期終了までの8週間程度。 後期: 11月下旬頃から後期終了までの8週間程度。</p> <p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語Ⅱa、Ⅱb、Ⅱcは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 数量、人数、時間、期間 (2) 過去の描写や感想 (3) 欲求、行動の目的 (4) 依頼、指示 (5) 許可、禁止、状態、職業 (6) 行動とその順序、複数の描写 (7) 禁止、必須、必要性 (8) 可能/不可能、趣味 (9) 経験、変化 (10) 親しい者同士の会話 (11) 意見・感想・予想 (12) 詳しい描写 (13) 使用法、道順 (14) 行為の授受 (15) 仮定</p> <p><実施形態> 基本的に対面の予定だが、状況によっては一部または全部を遠隔にする可能性もある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくること。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー オフィスアワーは木曜日の午後2時40分から4時10分まで、 研究室の場所は幸町北キャンパス(教育学部)5号館5階です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習と復習をしてください。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 073202) 初級日本語Ⅱb イ Elementary Japanese IIb Elementary Japanese IIb	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 2Q水2, 木2	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 日本語	提供部局: 大教センター DPコード: axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 高水 徹	関連授業科目 他の初級日本語		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2) 日本語初級の文法がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み(含 各種小テスト): 60% 2) 期末テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語IIa、IIb、IIcは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 数量、人数、時間、期間 (2) 過去の描写や感想 (3) 欲求、行動の目的 (4) 依頼、指示 (5) 許可、禁止、状態、職業 (6) 行動とその順序、複数の描写 (7) 禁止、必須、必要性 (8) 可能/不可能、趣味 (9) 経験、変化 (10) 親しい者同士の会話 (11) 意見・感想・予想 (12) 詳しい描写 (13) 使用法、道順 (14) 行為の授受 (15) 仮定</p> <p>この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくる。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー 火曜日 15:00～16:00、北5号館5階(研究室)または南2号館1階(インターナショナルオフィス)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 実際に日本語を使えるようになるためには、たくさん使うことが大切です。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 073203) 初級日本語ⅡcⅠ Elementary JapaneseⅡc 初級日本語Ⅱc Elementary JapaneseⅡc	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 2Q火2～3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香	関連授業科目 初級日本語Ⅰ、初級日本事情	履修推奨科目 同上	
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(予習・復習・課題への取り組み等を含めて約30時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる。 2) 日本語初級の文法がわかる。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み: 60% 2) 各種小テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施時期> 前期: 6月頃から前期終了までの8週間程度。 後期: 11月下旬頃から後期終了までの8週間程度。</p> <p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語IIa、IIb、IIcは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 数量、人数、時間、期間 (2) 過去の描写や感想 (3) 欲求、行動の目的 (4) 依頼、指示 (5) 許可、禁止、状態、職業 (6) 行動とその順序、複数の描写 (7) 禁止、必須、必要性 (8) 可能/不可能、趣味 (9) 経験、変化 (10) 親しい者同士の会話 (11) 意見・感想・予想 (12) 詳しい描写 (13) 使用法、道順 (14) 行為の授受 (15) 仮定</p> <p><実施形態> 基本的に対面の予定だが、状況によっては一部または全部を遠隔にする可能性もある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくる。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー オフィスアワーは木曜日の午後2時40分から4時10分まで、 研究室の場所は幸町北キャンパス(教育学部)5号館5階です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習と復習をしてください。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:073301) 初級日本語 I a ロ Elementary Japanese I a 初級日本語 I a Elementary Japanese I a	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 3Q月2~3	対象年次 1~
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香	関連授業科目 初級日本語II、初級日本事情		
	履修推奨科目 同上		
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(予習・復習・課題への取り組み等を含めて約30時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる。 2) 日本語初級の文法がわかる。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み: 60% 2) 各種小テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施時期> 前期: 4月中旬から5月末頃の8週間程度。 後期: 10月初旬から11月中旬頃の8週間程度。</p> <p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語Ia、Ib、Icは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 発音とひらがな (2) カタカナ (3) あいさつ (4) 自己紹介 (5) 物の名前、持ち主 (6) 場所、値段、買い物 (7) 時刻、曜日、日常の行動 (8) 復習 (9) 乗り物の利用 (10) 基本的な行動、勧誘 (11) 物の授受、日本語での名称 (12) 事物の描写や感想 (13) 好悪、所有、理由 (14) 場所と存在 (15) 復習</p> <p><実施形態> 基本的に対面の予定だが、状況によっては一部または全部を遠隔にする可能性もある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくる。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー オフィスアワーは木曜日の午後2時40分から4時10分まで、 研究室の場所は幸町北キャンパス(教育学部)5号館5階です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習と復習をしてください。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 073302) 初級日本語 I b ロ Elementary Japanese I b Elementary Japanese Ib	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 3Q木2~3	対象年次 1~
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード: axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 高水 徹	関連授業科目 他の初級日本語		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(準備学習16時間+事後学習16時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2) 日本語初級の文法がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み(含 各種小テスト): 60% 2) 期末テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語Ia、Ib、Icは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 発音とひらがな (2) カタカナ (3) あいさつ (4) 自己紹介 (5) 物の名前、持ち主 (6) 場所、値段、買い物 (7) 時刻、曜日、日常の行動 (8) 復習 (9) 乗り物の利用 (10) 基本的な行動、勧誘 (11) 物の授受、日本語での名称 (12) 事物の描写や感想 (13) 好悪、所有、理由 (14) 場所と存在 (15) 復習</p> <p>この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてこること。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー 火曜日 15:00~16:00、北5号館5階(研究室)または南2号館1階(インターナショナルオフィス)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 実際に日本語を使えるようになるためには、たくさん使うことが大切です。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 073303) 初級日本語 I c ロ Elementary Japanese I c Elementary Japanese I c	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 3Q火3~4	対象年次 1~
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード: axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 高水 徹	関連授業科目 他の初級日本語		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2) 日本語初級の文法がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
1) 授業における取り組み(含 各種小テスト): 60% 2) 期末テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語Ia、Ib、Icは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 発音とひらがな (2) カタカナ (3) あいさつ (4) 自己紹介 (5) 物の名前、持ち主 (6) 場所、値段、買い物 (7) 時刻、曜日、日常の行動 (8) 復習 (9) 乗り物の利用 (10) 基本的な行動、勧誘 (11) 物の授受、日本語での名称 (12) 事物の描写や感想 (13) 好悪、所有、理由 (14) 場所と存在 (15) 復習</p> <p>この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくること。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー 火曜日 15:00~16:00、北5号館5階(研究室)または南2号館1階(国際オフィス)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 実際に日本語を使えるようになるためには、たくさん使うことが大切です。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:073401) 初級日本語Ⅱa ロ Elementary Japanese Ⅱa 初級日本語Ⅱa Elementary Japanese Ⅱa	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 4Q月2～3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 塩井 実香	関連授業科目 初級日本語Ⅰ、初級日本事情		
	履修推奨科目 同上		
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(予習・復習・課題への取り組み等を含めて約30時間)			
授業の概要			
さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的			
本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる。 2) 日本語初級の文法がわかる。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
1) 授業における取り組み: 60% 2) 各種小テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<実施時期> 前期: 6月頃から前期終了までの8週間程度。 後期: 11月下旬頃から後期終了までの8週間程度。			
<実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語Ⅱa、Ⅱb、Ⅱcは、可能な限り全て受講すること。 (1) 数量、人数、時間、期間 (2) 過去の描写や感想 (3) 欲求、行動の目的 (4) 依頼、指示 (5) 許可、禁止、状態、職業 (6) 行動とその順序、複数の描写 (7) 禁止、必須、必要性 (8) 可能/不可能、趣味 (9) 経験、変化 (10) 親しい者同士の会話 (11) 意見・感想・予想 (12) 詳しい描写 (13) 使用法、道順 (14) 行為の授受 (15) 仮定			
<実施形態> 基本的に対面の予定だが、状況によっては一部または全部を遠隔にする可能性もある。			
<自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくる。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー オフィスアワーは木曜日の午後2時40分から4時10分まで、 研究室の場所は幸町北キャンパス(教育学部)5号館5階です。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習と復習をしてください。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 073402) 初級日本語Ⅱb ロ Elementary Japanese IIb Elementary Japanese IIb	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 4Q木2～3	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局: 大教センター DPコード: axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 高水 徹	関連授業科目 他の初級日本語		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2) 日本語初級の文法がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
1) 授業における取り組み(含 各種小テスト): 60% 2) 期末テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語IIa、IIb、IIcは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 数量、人数、時間、期間 (2) 過去の描写や感想 (3) 欲求、行動の目的 (4) 依頼、指示 (5) 許可、禁止、状態、職業 (6) 行動とその順序、複数の描写 (7) 禁止、必須、必要性 (8) 可能/不可能、趣味 (9) 経験、変化 (10) 親しい者同士の会話 (11) 意見・感想・予想 (12) 詳しい描写 (13) 使用法、道順 (14) 行為の授受 (15) 仮定</p> <p>この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくる。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー 火曜日 15:00～16:00、北5号館5階(研究室)または南2号館1階(インターナショナルオフィス)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 実際に日本語を使えるようになるためには、たくさん使うことが大切です。			

ナンバリングコード B2JPN-axxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 073403) 初級日本語Ⅱc ロ Elementary Japanese Ⅱc Elementary Japanese Ⅱc	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 4Q火3~4	対象年次 1~
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード: axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 高水 徹	関連授業科目 他の初級日本語		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回(週2コマ) + 自学自習(準備学習16時間+事後学習16時間)			
授業の概要 さぬきプログラムの一環として、日本語の基礎を習得する。			
授業の目的 本授業を含む日本語と日本事情が一体となったさぬきプログラムを通して、日本語によるコミュニケーション能力(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)と日本に関する知識を学ぶ。			
到達目標			
1) 日本語の基礎的な語彙がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2) 日本語初級の文法がわかる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3) 上記の日本語の知識を実際に運用することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 1) 授業における取り組み(含 各種小テスト): 60% 2) 期末テスト: 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><実施方法> 1週間あたり2コマで、合計15コマ。初級日本語IIa、IIb、IIcは、可能な限り全て受講すること。</p> <p>(1) 数量、人数、時間、期間 (2) 過去の描写や感想 (3) 欲求、行動の目的 (4) 依頼、指示 (5) 許可、禁止、状態、職業 (6) 行動とその順序、複数の描写 (7) 禁止、必須、必要性 (8) 可能/不可能、趣味 (9) 経験、変化 (10) 親しい者同士の会話 (11) 意見・感想・予想 (12) 詳しい描写 (13) 使用法、道順 (14) 行為の授受 (15) 仮定</p> <p>この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p><自学自習に関するアドバイス> 授業において課される課題を確実にしてくる。また、日常生活においても学習した知識を実践すること。</p>			
教科書・参考書等 『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』 ただし、購入に関しては授業中に指示する。			
オフィスアワー 火曜日 15:00~16:00、北5号館5階(研究室)または南2号館1階(国際オフィス)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 実際に日本語を使えるようになるためには、たくさん使うことが大切です。			

ナンバリングコード B2JPN-abeG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:074102) 初級日本事情b イ Japanese Current Affairs b 初級日本事情bイ (Japanese Current Affairs bイ)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 前期月4	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abe	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 尾上 能久	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、香川県を中心とした地域の理解を進めるとともに、様々な分野における現状、課題、取り組みを学ぶ。なお、本授業は「さぬきプログラム」対象留学生向けであり、講義及びディスカッション等の活動は英語・日本語併用で行います。			
授業の目的 この授業では、香川県、四国地方、日本の概要を理解するとともに、日本や地域における課題の解決方法、その結果を通じて、自国での課題解決を行う上でのアイデアや考え方を身に付けます。			
到達目標			
1. 香川県及び四国地域の地理、歴史、文化についての概要について理解して説明が出来る。 (「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 様々な開発課題に対するわが国の取り組みとその成果及び問題点について説明ができる。(「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3) 日本の良い点を理解し、自国での課題解決に活用できる。(「課題解決のための汎用的スキル」、「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業における取組・発問・参加 (30%)、課題への回答、レポート (30%)、期末レポート (40%) により評価を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回 インTRODダクション (日本人について) 第2回 四国/香川の概要 (地理/歴史) 第3回 四国/香川の概要 (文化/観光) 第4回 四国/香川の概要 (農業/灌漑/水) 第5回 四国/香川の概要 (産業/地方創生) 第6回 日本の概要 (政治・経済) 第7回 わが国開発課題への対応 (防災) 第8回 中間まとめ・ワークショップ 第9回 わが国開発課題への対応 (少子高齢化/外国人受入) 第10回 わが国開発課題への対応 (保健医療と社会保障) 第11回 わが国開発課題への対応 (産業開発) 第12回 わが国開発課題への対応 (農林水産業) 第13回 わが国開発課題への対応 (学校教育、若者文化) 第14回 ワークショップ 第15回 まとめ 上記は予定であり、詳細は最初の授業の際に説明します。			
【授業及び学習の方法】 各回テーマに沿って、わが国の開発の取り組み概要や四国/香川の概要を問答形式で説明するとともに、受講者の出身国が抱える類似課題との比較、対応の相違点とその理由等について、受講者の間でディスカッションを行います。			
【自学自習のアドバイス】 受講者は各回のテーマに関して自身の出身国が抱える課題を事前に下調べし、簡単な発表ができるようにしておくことが求められます。また、授業で出てきた日本語の語彙については毎回復習して理解しておくこと。			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。参考図書等は適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3時限目 (13:00~14:30)、他の時間はメールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は、「さぬきプログラム」対象留学生のための授業であり、日本人学生は単位を取得できません。
また、授業は英語・日本語併用で行います。（開講時は原則英語。日本語学習の進捗に合わせて徐々に日本語の使用時間を増やします）

ナンバリングコード B2JPN-abeG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:074202) 初級日本事情b ロ Japanese Current Affairs b 初級日本事情bロ (Japanese Current Affairs bイ)	科目区分 外国語科目	時間割 2022年度 後期月4	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 日本語	提供部局:大教センター DPコード:abe	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 尾上 能久	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、香川県を中心とした地域の理解を進めるとともに、様々な分野における現状、課題、取り組みを学びます。 なお、本授業は「さぬきプログラム」対象留学生向けであり、講義及びディスカッション等の活動は英語・日本語併用で行います。			
授業の目的 この授業では、香川県、四国地方、日本の概要を理解するとともに、日本や地域における課題の解決方法、その結果を通じて、自国での課題解決を行う上でのアイデアや考え方を身に付けます。			
到達目標			
1. 香川県及び四国地域の地理、歴史、文化についての概要について理解して説明が出来る。 (「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 様々な開発課題に対するわが国の取り組みとその成果及び問題点について説明ができる。(「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3) 日本の良い点を理解し、自国での課題解決に活用できる。(「課題解決のための汎用的スキル」、「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業における取組・発問・参加 (30%)、課題への回答、レポート (30%)、期末レポート (40%) により評価を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回 インTRODダクション (日本人について) 第2回 四国/香川の概要 (地理/歴史) 第3回 四国/香川の概要 (文化/観光) 第4回 四国/香川の概要 (農業/灌漑/水) 第5回 四国/香川の概要 (産業/地方創生) 第6回 日本の概要 (政治・経済) 第7回 わが国開発課題への対応 (防災) 第8回 中間まとめ・ワークショップ 第9回 わが国開発課題への対応 (少子高齢化/外国人受入) 第10回 わが国開発課題への対応 (保健医療と社会保障) 第11回 わが国開発課題への対応 (産業開発) 第12回 わが国開発課題への対応 (農林水産業) 第13回 わが国開発課題への対応 (学校教育、若者文化) 第14回 ワークショップ 第15回 まとめ 上記は予定であり、詳細は最初の授業の際に説明します。			
【授業及び学習の方法】 各回テーマに沿って、わが国の開発の取り組み概要や四国/香川の概要を問答形式で説明するとともに、受講者の出身国が抱える類似課題との比較、対応の相違点とその理由等について、受講者の間でディスカッションを行います。			
【自学自習のアドバイス】 受講者は各回のテーマに関して自身の出身国が抱える課題を事前に下調べし、簡単な発表ができるようにしておくことが求められます。また、授業で出てきた日本語の語彙については毎回復習して理解しておくこと。			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。参考図書等は適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日3時限目 (13:00~14:30)、他の時間はメールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は、「さぬきプログラム」対象留学生のための授業であり、日本人学生は単位を取得できません。
また、授業は英語・日本語併用で行います。（開講時は原則英語。日本語学習の進捗に合わせて徐々に日本語の使用時間を増やします）